

今日の説教のポイント <創世記3章20-24節>

①「善悪の知識の木」。それは、「善が何か、悪が何か、分かるようになる木」を意味しているのではない。「何を善とするか、何を悪とするかを自分で決めるようになる、の意味である」。

創世記2～3章の話を読むと、「『善悪の知識の木』を食べて、何が善で、何が悪か分かるようになるなら、それでいいではないか」、と思うかもしれません。しかし、「善悪の知識の木」はそのような意味ではなく、「何が善で、何が悪か、それを自分で決めるようになる」ことを意味しています。それは人間が行っていいことではありません。神ではない人間が自分で善し悪しを決めるようになったら、目先の欲望にかられて自分に都合のいいように善し悪しを決めて行い、その挙句、自分が苦しむようなことに繋がりがかねないからです。今回の原発事故で考えなければならない根本的な問題の一つは、この人間が持つ本質です。

②エデンの園からの追放は、神様の命令を破った人間への罰か？ 否、むしろそこには、罪を犯した人間への神様の憐れみが満ち溢れている。

まず21節に、「アダムと女に皮の衣を作って着せられた」とあります。神様の言いつけを破って「善悪の知識の木」の実を食べ、裸であることを知って恥ずかしさに震えた二人です（7節）。その恥を神様が覆って下さったのです！ここに、罪を犯した人間をなお赦して下さる神様のお姿を、聖書の中で最も早くはっきりと見ることができます。

次に、エデンの園から彼らを追放されることが記されています。追放、それはいかにも罰として与えられたという感じです。しかし、果たしてそうでしょうか？神様がエデンの園から追放されたのは、人間が「命の木」からも取って食べ、永遠に生きるようになるかもしれないことを心配されたからでした。16～19節では、神様に聞かないで生きる人間の姿は苦悩に満ちたものになることが告げられていました。神様から離れて生きる時、人間にとって永遠に生き続けることは決して幸いなことではないのです。ですから、ここでも、神様が罪を犯した人間のことを思って下さっていることを考えなければならないのです。

では、そんな私たちに救いの道はないのでしょうか？いいえ、神様は、「主イエスを身にまといなさい」（ローマ13:14）と、私たちが「キリストを着る」（ガラテヤ3:27）道を備えて下さいました。私たちは皆罪人です。しかし、私たちがキリストによる神様の救いを信じて生き出す時に、神様に赦されて「生きていい」とされた罪人となるのです！